

## ～小西信八の生涯～

作成：新谷嘉浩（日本豊史学会運営委員・近畿豊史研究グループ）

### はじめに

平成 17 年 11 月 26～27 日に長岡で第 8 回日本豊史学会が開催され、ディスカッション『小西信八の業績をふりかえる』を企画した。小西信八の生涯を紹介したあと、彼の業績は何かを知ってもらう為に日本豊史学会運営委員 3 人に語ってもらった。

パワーポイントで彼の生涯を紹介した「小西信八の生涯」は『小西信八年譜稿』小川克正著（治療教育研究紀要・第 16 号）をベースにその他の書籍や雑誌を参考参照して書き上げた。

長岡出身の小西信八が明治時代に盲教育・聾教育、知的障害児教育など幅広く教育制度の基盤を築き、「東洋のペストロッツ」と称えられたのにも関わらず、彼の功績を知る人が少なく、伝記 1 冊も出版されていない。彼と同じ東京盲啞学校に奉職していた石川倉次は日本点字を編みだし、後に「日本点字の父」と称えられ、伝記（※）まで発行されている。

本稿は「小西信八の生涯」を一部加筆して転載したものである。読者が小西信八の業績を知ると共に彼に関する研究の参考になれば幸いである。



こにし のぶはち  
小西 信八

嘉永 7 (1854) 年

5

昭和 13 (1938) 年

嘉永 7 (1854) 年 1 歳

・ 1 月 24 日

長岡藩医 小西善碩の二男として、越後国古志郡高山村（現在の長岡市高島町）生まれる。

文久元 (1861) 年 8 歳

・ 長岡藩士 鬼頭平四郎、田中春回、富士一居の三師につき習字、漢学、珠算を学び、長岡藩校『崇徳館』において経史を学ぶ。

慶応 4 (1868) 年 15 歳

・ 5 月 19 日

長岡落城、一家は比礼山（ひれやま）付近に逃れ「徳三」方に匿われる。

明治 2 (1869) 年 16 歳

・ 一家は長岡にもどる。長岡・千手町にある田中春回の「蓋簪義塾（がいさんぎじゅく）」に入門し、3 年間、漢学・洋算をおさめる。

明治 4 (1871) 年 18 歳

・ 2 月 1 日

長岡町女子小 句読師を 2 年勤め、なお二師につき修学。

明治 5 (1872) 年 19 歳

・ 1 2 月

洋学校開設と同時に入学。はじめて英書を学ぶ。洋学校は現在の新潟県立長岡高等学校。

明治 8 (1875) 年 22 歳

・ 4 月 30 日 結婚

・ 5 月 25 日 上京。

東京・神田にある共学舎に入学。

明治 9 (1876) 年 26 歳

・ 4 月 8 日

東京師範学校に入学。中学師範科第 1 回入学生 60 名の内。

明治 12 (1879) 年 5 月 21 日に卒業。



東京師範学校

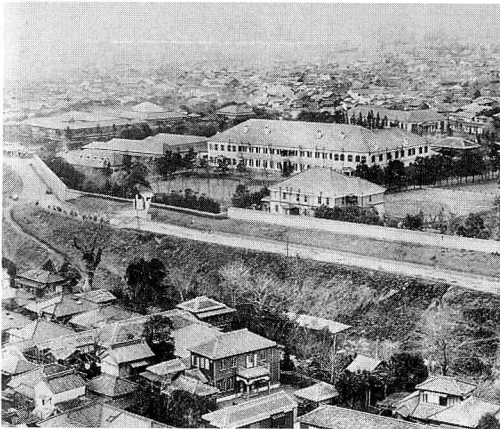
「東京教育大学小史 HP」より

明治12 (1879) 年 26 歳

- ・ 9月1日  
千葉県中学校兼師範学校教師となる

明治13 (1880) 年 27 歳

- ・ 6月29日  
千葉県女子師範学校教師長 (教頭のこと) 兼監事となる。
- ・ 9月14日  
東京女子師範学校訓導となる



東京女子師範学校 (明治21年)  
(お茶の水女子大の前身)

明治14 (1881) 年 28 歳

- ・ 7月16日  
東京女子師範学校助教諭となる。理科 (植物学) を担当。附属幼稚園監事に就任。

明治17 (1884) 年 31 歳

- ・ 1月27日  
工部大学校 (東京・虎ノ門) で開催の「かなのくわい」に出席。石川倉次らも同席。  
「コニシ ノブハチ」の名刺を石川倉次に差し出す。

- ・ 2月20日  
東京女子師範学校助教諭の本務のかたわら文部省普通学務局に兼務する。

- ・ 12月23日  
東京女子師範学校教諭となる。

明治18 (1885) 年 32 歳

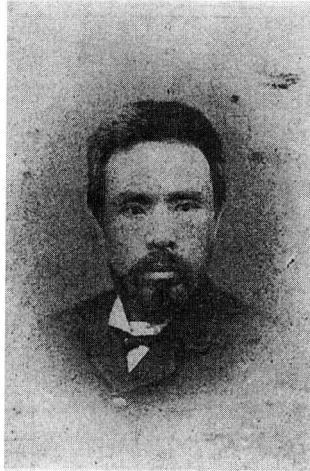
- ・ 2月9日  
文部省事務組織の改組により、文部省学務二局詰兼務となる。

- ・ 9月7日  
東京師範学校教諭附属幼稚園主任となる。

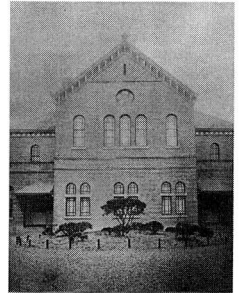
[明治18年8月に東京女子師範学校は、東京師範学校に合併されたことによる異動。]

明治19 (1896) 年 33 歳

- ・ 1月23日  
文部四等属訓盲啞院掛専務を申付けられる。



小西信八  
明治19年盲啞教育に入った年



訓盲啞院

明治18年11月21日、  
楽善会訓盲啞院が文部  
省直轄学校と認可され  
た。

#### ■ろう教育に携わった理由は？

一体盲啞教育には趣味があったのか、未だ御茶ノ水の幼稚園に奉職して居る頃から、時々訓盲啞院へ来ては参観した所が・・・。

生徒の教科書が千字文だの論語だのといふ漢文ばかりなので、そんな物を教へて何になるものかなどと岡目八目で毒口を吐いた事がある。天罰観面 (てんばつてきめん) !

学校が文部省直轄となるやすぐさま引張り出されて教鞭を執る事となり、26年に真に校長の職を奉じるようになった。

明治19 (1896) 年 33 歳

小西信八、石川倉次に  
訓盲啞院への転入の勧誘  
の手紙を4回出す。

- ・ 3月6日  
石川倉次を訓盲啞院雇  
として迎える。

- ・ 5月16日  
教員小西信八、伊澤修二宅へ啞生吉川金造・江島安之助を伴って視話法を伝習する

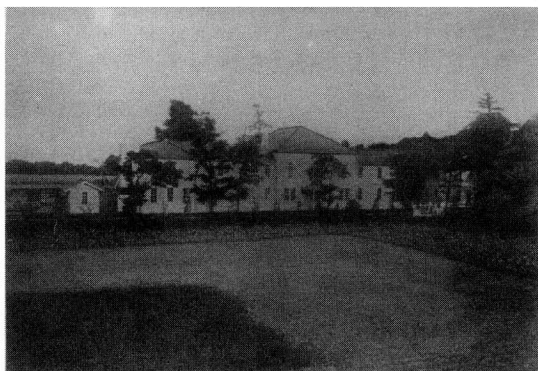


石川倉次



東京音楽学校校長時代の伊澤修二  
明治23年6月9日～23年9月10日  
東京盲啞学校校長を務める。

- ・10月11日  
小西信八、校長心得を命ぜられる。



東京盲啞学校（明治24年5月落成）

明治20（1887）年 34歳

- ・4月10日  
吉川金造、村山堅之助、高木慎之介を伴い、大日本教育会集会に行き、「啞生教育の目的及び啞人の発音」と題して講演。
- ・5月14日  
吉川金造、村山堅之助、高木慎之介を同伴、大日本教育会において発音指導について説明し、その実演を行う。
- ・6月20日 京都市立盲啞院へ訪問。

- ・9月27日 第1回点字撰定会
- ・10月4日 第2回点字撰定会
- ・10月18日 第3回点字撰定会
- ・11月1日 第4回点字撰定会  
この会議は小西・石川・遠山・奥村と生徒10名が出席。この会議で「ブライユ点字のままに五十音を配当したものは廃棄し、断然石川案を採用すること」に決定。  
石川倉次の考えた点字が日本点字となった。この11月1日が点字記念日に制定され、今日に至っている。



文部省直割訓盲啞院専務小西信八来院記念写真  
左より一人おいて古河太四郎、小西信八、鳥居嘉三郎

明治24（1891）年 38歳

- ・7月16日 東京盲啞学校啞生同窓会を創設



明治29年7月10日撮影  
（「筑波大学附属豊学校同窓会百年史」より）

- ・10月5日  
訓盲啞院は東京盲啞学校と改称。
- ・10月25日  
東京盲啞学校教諭兼幹事となる。

明治25（1892）年 39歳

- ・7月10日  
東京盲啞学校「啞生同窓会」第1回談話会、開催。小西信八、客員として出席し、演説。演説テーマ『偽啞捕縛ノ顛末（てんまつ）』

明治23（1890）年 37歳

- ・7月6日  
京橋区築地から小石川区指ヶ谷町の新築官舎に移る。

明治26（1893）年 40歳

- ・2月7日  
夜間外出先にて誤って石上に転倒し、前額部を

控創し、順天堂病院に入院。額（ひたい）を7針縫合する。

- ・9月11日  
東京盲啞学校長に任ぜられる。

明治28 (1895) 年 42歳

- ・8月26日  
東京盲啞学校の卒業生・斉藤吉次の招魂式を講堂で開催。「故斉藤吉次招魂式言」を読む。聾啞に知的障害を併せ有する次男のことに言及する。「(前略) 予二十一歳ナル癡狂(てんきょう)を兼子タル聾啞男児アリ  
乱暴狼狽至ラザル無ク一家此児ノタメニ煩悶スルコト日ニ何回ナルヲ知ラズ (以下省略)」

明治29 (1896) 年 43歳

- ・4月11日  
校長学事報告で当面する課題の一つに知能障害児の問題を取上げる。「白痴ト為リタル者及通例ノ白痴等ヲ取扱事亦本校ノ試シコトヲ希望スル所ナリ」
- ・12月15日  
障害児教育研究のため、文部省より欧米留学を命ぜられる。  
「盲啞教育研究ノタメ満一年半米国、仏国及独逸国へ留学ヲ命ス、白痴孤児及貧困児ノ教育法研究ヲモ兼ヌ」
- ・12月22日  
午前6時30分、出門。  
正午、米船コブチック号でアメリカに向けて出発。
- ・12月31日  
ハワイ到着。

明治30 (1897) 年 44歳

- ・1月1日 領事館に出向き参観。
  - ・1月7日 サンフランシスコに到着。
  - ・1月14日 ボルクレイ盲啞学校を参観。
- サンフランシスコ  
↓  
サルトレキ  
↓  
シカゴ  
↓  
セントルイス  
↓  
ワシントン  
↓  
フィラデルフィア

- ・8月8日 グリン・ミル感化院を参観。
- ・10月15日 イギリスに向けアメリカを出帆。
- ・10月17日 ニューヨークに到着。
- ・12月22日 ロンドンに入る。

明治31 (1898) 年 45歳

- ・3月15日 ヘンリー・フォールズを訪問。
- ・3月16日 グラスゴーに着き、聾啞学校を訪問
- ・3月17日 訓盲院を参観。
- ・3月18日 エジンバラ訓盲院を参観。
- ・3月21日 ドナルドソン貧児院を参観。
- ・3月23日 バーミンガム訓盲院を参観。
- ・3月24日 バーミンガム聾啞学校を参観。
- ・3月25日 ブリストル孤児院を訪問。
- ・3月28日 ブリストル聾啞学校を訪問。
- ・3月29日 ブリストル訓盲院を訪問。
- ・4月18日 ドイツのベルリンへ行く。

- ベルリン  
↓  
ライブチヒ  
↓  
ドレスデン  
↓  
ストラスブルク
- ・7月27日 王立訓盲院(ドイツ・ステークリク)
  - ・7月27日 ベルリン市立訓盲院、市立白痴院を参観
  - ・8月6日 オランダに至る。
  - ・以降、ベルギー等の盲学校聾学校を訪問。
  - ・8月10日 「神奈川丸」に乗る。
  - ・9月28日 神戸に帰国。「神戸丸」に乗りかえて東京へ。
  - ・9月29日 横浜に到着。

- ・10月9日  
東京盲啞学校生徒による校長歓迎会
- ・10月10日  
ベル夫妻と令嬢、東京盲啞学校を来訪。



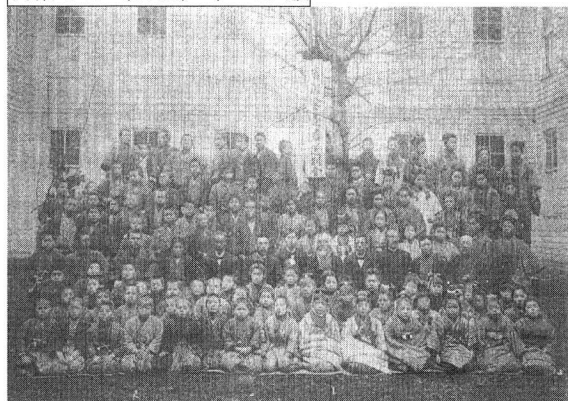
アレキサンダー・グラハム・ベル博士  
校庭の庭に歓迎会記念写真

明治32 (1899) 年 46歳

・7月21日

文部大臣宛に「東京盲啞学校ヲ盲学校聾学校ニ二分設スルニツキ上申」

明治33(1900)年 47歳



吉川金造氏、豊橋盲啞学校教員として奉職。

・3月31日 吉川金造君送別会(東京盲啞学校)

・8月20日

勅令344号『小学校令改正(抄)』

「幼稚園、盲啞学校其ノ他小学校ニ類スル各種学校ハ之ヲ小学校ニ附設スルコトヲ得」  
⇒小西の提案が反映されたものであった。

明治34(1901)年 48歳

・6月18日

東京市教育会調査部に顧問の一人として出席。  
「不具者教育」の件、感化院設置の件、実業教員養成所設置の件につき協議する。

・10月1日

帝国教育会国字改良部例会に出席。「言文一致の文のかきかたの標準」11項目を決議。

・小西信八、「盲啞ノ教育ハ慈善家好事ノ道楽ニアラス、盲啞モ均シク国民教育ヲ受クル権利」があると明言。

明治36(1903)年 50歳

・4月8日

第5回内国勲業博覧会審査官として、出張を命ぜられる。

・6月1日

第5回内国勲業博覧会審査官の用務を重ね、長崎盲啞学校へ出張。

君八信西小官査審部九第



「第五回内国勲業博覧会審査官列伝」前編 金港堂編より

・3月10日

東京盲啞学校教員練習科規則が制定。

・11月11日

東京盲啞学校教員練習科生6名が入学。

明治37(1904)年 51歳

・11月9日

長岡の金子徳十郎が中心となって、創設を準備している長岡盲啞学校支援のために23年ぶりに故郷を訪れる。

夜、表町小学校において波多野伝三郎・衆議院議員、古志郡長・阿部到、小西信八の3人による講演会。



金子徳十郎

・11月10日

午前中、町役場において盲児や聾児をもつ父母を前にして講演。午後、母校である長岡中学で講演。長岡盲啞学校開設への支援と開設後の後援を在校生に呼びかける。

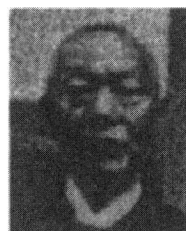
・11月11日

午前中、長岡女子師範学校、午後から長岡高等女学校。盲教育・聾教育の必要性について講演。長岡盲啞学校への支援を在校生に呼びかける。

明治38(1905)年 52歳

・3月

長岡盲啞学校の創設者・金子徳十郎が上京し、面会する。教員練習科第2回卒業予定の高取易太郎(新潟県南蒲原郡出身)を主任教員として推薦する。



高取易太郎

- ・ 4月15日  
長岡盲啞学校、開業

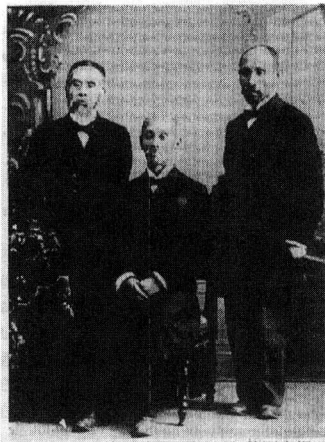
明治39 (1906) 年 53歳

- ・ 10月14日  
聾啞教育講演会  
小西信八「欧米聾啞の教育概念」講演



第1回全国聾啞大会発起人と委員一同

- ・ 10月16日  
牧野文相に盲啞分離の建議をした。



【左】小西信八 (東京)  
【中】古河太四郎 (大阪)  
【右】鳥居嘉三郎 (京都)

明治40 (1907) 年 54歳

- ・ 4月17日  
文部省訓令第六号  
「師範学校規程ノ要旨及施行上ノ注意」  
その中で盲人、啞人、心身發育不全の児童のため特別学級を設けて、その教育方法を研究することを奨励した。

＝師範学校附属小学校に盲啞学級を設置した県＝  
宮城 (明治35年)  
徳島 (明治40年)  
高知 (明治41年)  
和歌山 (明治42年)

- ・ 10月21日  
帝国教育会の「訓盲教聾両調査部」会に出席して、次の事項について協議する。

●訓盲教聾両調査部  
○十月廿一日午後四時半訓盲教聾両調査部會を開く會者社會長湯本、篠田、多田、日下部の四主事及前島男爵、白仁、小西、石川倉次、石川重孝、遠山の諸氏にて小西氏提出の左案に就て協議せり

- 一、小學校に盲啞學校を附設する方法如何
- 二、小學校訓練に盲啞教授法を普及する方法
- 三、公立盲啞學校設立を奨励する方法
- 四、公立盲啞學校職員は公立小學校職員と待遇を同一にする
- 五、明治四十五年開催の万国教育大會中に万国盲啞教育會を置くの可否
- 六、各國盲人會又は聾啞教育會(會報)大會決議を請求するは如何

右協議の結果其一是次回までに小西氏より材料を集めて部會に送り其上に成案する事其二、三は可決其四は暫く見合す事其五は社會長に依頼して來四十五年開催を企て、ある万国教育大會へ提出すること其六は白仁氏に於て更に外國雜誌を取調べ其上で決すること決定せり

明治42 (1909) 年 56歳

- ・ 1月2日  
帝国教育会ならびに東京府、東京市教育会連合新年宴賀会に出席。

- ・ 2月8日  
午後、帝国教育会評議員に出席する。



小西 信八 (56歳)

明治43 (1910) 年 57歳

- ・ 4月1日 東京聾啞学校長に任ぜられる。



東京聾啞学校

(『六十年史』東京聾啞学校/昭和10年10月30日発行より)

明治45 (1912) 年 59歳

- ・ 1月30日  
東京盲学校で開催の「点字發明記念会」(ブライユ生誕百年・石川倉次誕生会)に出席し演説。

- ・ 4月23日  
秋田県立盲啞学校の開設に伴い、秦豊助秋田県知事から依頼のあった秋田県出身の三浦造と松田宇一郎の割愛について了承の書簡を送る。

大正2 (1913) 年 60歳

・1月1日 東京聾唖倶楽部の発会式が開催。

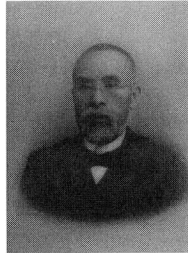


聾唖倶楽部発会式に臨みて記念写真  
『聾唖界』第1号/大正2年11月1日)

大正3 (1914) 年 61歳

・1月24日

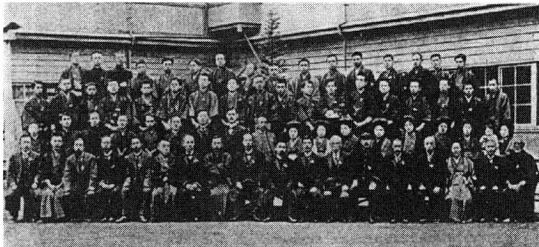
卒業生並びに在校生合同主催の「小西校長還暦祝賀会」に招待される。



本年還暦にあたる  
小西信八

大正4 (1915) 年 62歳

・11月25日 日本聾唖協会発会式



京都市立盲唖院にて

・3月 東京聾唖学校・卒業式



前列左から7番目：小西信八校長

大正6 (1917) 年 64歳

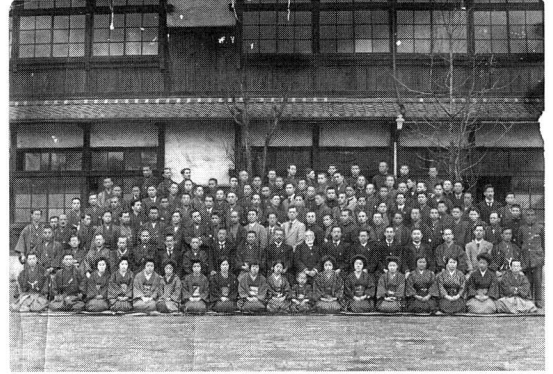
・10月29日

町田東京盲学校とともに文部省に次の3件について建議書を提出する。

- (1) 盲唖教育令発布に関する建議
- (2) 各府県に公立盲唖学校設置に関する建議
- (3) 盲唖教育視察委員設置に関する建議

大正10 (1919) 年 68歳

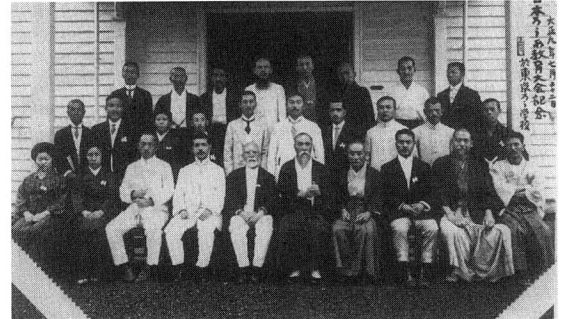
・4月2日 日本聾唖協会第三回総会



大阪市立盲唖学校にて  
前から二列目 右から8番目 (高橋潔氏の左となり)

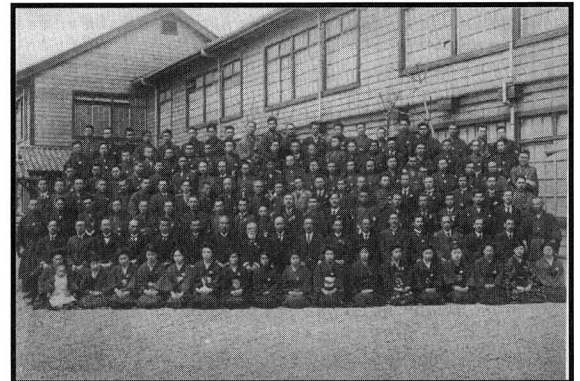
・7月22日

日本聾唖教育大会が東京聾唖学校で開催。



大正11 (1922) 年 69歳

・4月5日 日本聾唖協会第4回総会



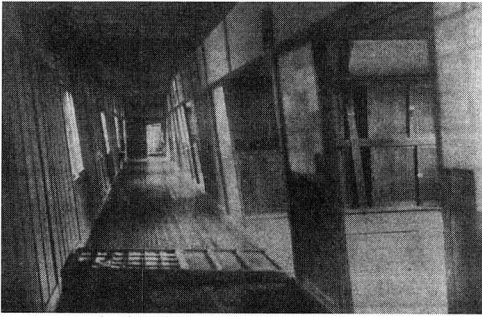
名古屋市立盲唖学校にて

大正12 (1922) 年 70歳

・8月28日

勅令第375号を以て「盲学校及聾学校令」が  
発布される。

・9月1日 関東大震災



大震災直後の東京聾哑学校 (男子寮)



震災当時から翌年1月まで夜警  
にあたる小西信八

大正13 (1923) 年 71歳

・3月28日 日本聾哑教育会が発足。



・12月22日

創立記念日・終業式の訓話を板書しようとした  
が手が動かさず。動脈硬化症を発症。

大正14 (1925) 年 72歳

・2月 退職願いを提出する。

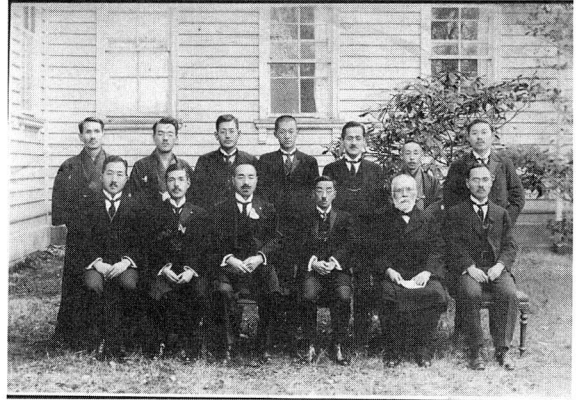
・3月25日

第37回卒業証書授与式、石川倉次が校長職を  
代行する。

・3月31日 願いにより免官。

・12月22日

午前中、「本邦聾哑教育開始・創立50年記念祝  
賀会」、午後から「小西信八前校長慰安会」が開  
催。委員長・樋口長市。



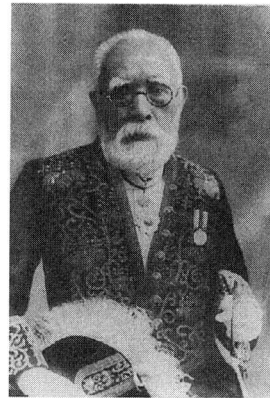
山尾総裁新田会長の顔合わせ  
(東京聾哑学校創立五十年記念式当日)

前列右から2番目が小西。

後列右から：三浦浩、横江榮雄、藤本敏文、福島彦次郎、  
(不明)、横尾義智、岡藤園

昭和9 (1934) 年 81歳

・4月



結婚60年を記念して

昭和10 (1935) 年 82歳



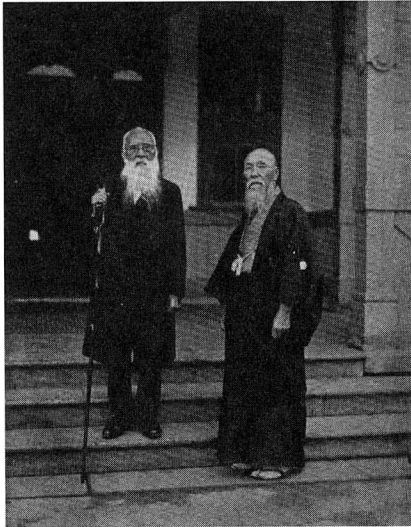
目白の自宅にて  
右より小西信八、よしよ子、梅子



昭和12 (1937) 年 84 歳

・11月1日

東京盲学校で開催の点字翻案記念研究会に招待される。



左) 小西信八、右) 石川倉次

小西信八先生の信条



このわが かがみなれこそ  
たふれても たふれても また  
おきあがる  
こにし のぶはち

昭和13 (1938) 年 85 歳

・3月25日 橋本豊太郎の上京を機として



前列左より 篠田利英、小西信八、橋本豊太郎

- ・6月7日 この頃から病を得て臥床。<sup>がしやう</sup>
- ・7月5日 永眠
- ・7月7日 小石川表町の伝通院で告別式
- ・霊位 明光院誠誉信行居士



参考・引用文献

- ・『六十年史』東京聾唖学校／昭和10年10月30日発行
- ・『東京盲聾学校概覧』東京盲聾学校／明治33年12月
- ・『盲聾教育の師父 小西信八先生小伝と追憶』日本聾唖教育会・日本聾唖協会・東京聾唖学校同窓会／昭和13年10月2日発行
- ・『小西信八先生存稿集』小西信八先生存稿刊行会／復刻版／1997年10月28日
- ・『筑波大学付属聾学校百年史』筑波大学付属聾学校同窓会／平成3年11月23日
- ・『聴覚障害教師の嚆矢 吉川金造先生』豊橋聾学校創立百周年記念事業実行委員会／平成10年7月8日
- ・『1908←→1971 ろうあ運動のあゆみ』財団法人全日本聾唖連盟出版局／1971年5月4日
- ・『日本聾唖画報』(社)日本聾唖協会京都部会写真部
- ・『日本盲聾教育史』京都市立盲学校・聾唖学校同窓会／昭和4年10月20日発行
- ・『近代盲聾教育の成立と発展 古河太四郎の生涯から』岡本稲丸／1997年7月20日
- ・『日本点字の父 石川倉次先生伝』日本点字七十周年記念事業実行委員会／昭和36年11月1日
- ・『日本点字制定100周年記念 浜松出身日本点字の創始者 石川倉次』浜松市市中

中央図書館／平成2年11月13日

- 『町田則文先生伝』町田則文先生謝恩事業  
会編
- 『伊澤修二』上沼八郎／日本歴史学会編集  
／昭和63年8月1日発行
- 『特殊教育百年史』文部省／昭和53年10  
月27日
- 『盲聾教育八十年史』文部省／昭和56年  
9月25日
- 『聾教育百年のあゆみ』（財）聴覚障害者  
教育福祉協会／昭和54年12月15日
- 『障害児教育の歴史』中村満紀男、荒川智  
編著／2003年10月20日
- 『長岡郷土史』第28号 長岡郷土史研究  
会／平成3年5月11日
- 雑誌『聾啞界』日本聾啞協会
- 雑誌『啞生同窓会報告』第1～4、6～9号  
／東京盲啞学校啞生同窓会
- 論文『小西信八年譜考』小川克正／治療教  
育紀要第16号、1995年7月発行
- 論文『小西信八の聾教育論 一言語教育方  
法を中心に』前田朋子／広島大学教育学  
部紀要第43号、1994年